

重点目標	【心の居場所となる学校、絆づくりの場となる学校】 生徒指導
------	-------------------------------



現 状	- 前年度県学習状況調査・質問紙調査「自分にはよいところがあると思う」肯定的回答が4年生以上平均81.7%、前年比-3.5%であった。 - いじめの認知数61件、いじめを許さない意識が高まり、認知後の早期対応が定着。 - 不登校児童2名と相談室登校をしている不登校傾向児童2名は、保護者との話し合いや関係諸機関との連携を取りながら対応している。
-----	--



具体的な目標	- 児童アンケート「自分にはよいところがある」85%以上を、保護者アンケート「子どもたちはやさしさを行いで表していると思う」肯定的評価の割合90%以上を目指す - 不登校傾向の解消に努める。
--------	--



目標達成のための方策	- 学級活動や児童会活動、学校行事等で、「正しい行い」について確認する場を設定し、児童一人一人の選択が互いに認められるようにする。 - 子どもを語る会、あかしや点検表、友達アンケートなどにより、気になる児童の全職員による共通理解を行い、支援体制を整える。 - 保護者や関係諸機関と迅速な連携を図り、諸事象に対応する。
------------	--



具体的な 取組状況	- 各学級の帰りの会で、その日頑張った児童を認める場を設定したり、各種学校行事や児童会活動のふり返りの場で活動を価値付けたりする等、教師や友達に認められる場の活用にも努めた。 - 子供を語る会では全教員、配慮しなければならない児童を確認し合い、全校体制で継続して見守った。また、毎月のあかしや点検や友達アンケートで気になる子どもを把握し、個別に対応した。 「生徒指導だより」「生徒指導部報」で保護者へ安全な登下校への啓発に努めたり、生徒指導上の児童への共通理解を図ったりした。 - 事案に応じて保護者や民生委員児童委員、市適応教室等の関係諸機関と迅速な連携を図ることに努めた。
--------------	---

達 成 状 況	・ 保護者アンケートはWeb無記名方式で実施した。 ・ 県学習状況調査・質問紙調査「自分にはよいところがあると思う」肯定的回答の割合が、4年生92.8%[+7.9]、5年生90.0%[+8.9]、6年生95.6%[+11.0]であった。また、「人の役に立つ人間になりたい」は、4年生98.2%[+2.3]、5年生95.7%[-0.7]、6年生98.5%[+1.8]で、よりよくありたいと意識していることが分かる。 ・ 保護者アンケートで「子どもたちはやさしさを行いで表していると思う」について肯定的評価の割合が87.8%と目標を若干下回った。 ・ 現在の不登校は、6年生2名、5年生1名である。うち、6年生1名は、週1回放課後に登校して、担任と学習したり面談したりしていたが、冬期になってからは登校できていない。他の2名は、体調が良い時間帯に登校することがある。この他、1学期に不登校傾向が強かった5年生児童は、担任の働きかけにより、2学期から完全に復帰している。 ・ 年度途中で登校しづりが見られた児童が複数あったが、それぞれ、家庭との連携を密にして対応した結果、順調に登校できている。	D
---------	--	---



自 己 評 価	B	・ 正しいと思うことをまずやってみる「勇気」を大切にすることを意識させたところ、児童会総会で自分たちができることが話し合われたり、低学年の自主的なあいさつ運動が行われたりした。 ・ 子供を語る会、あかしや点検表、友達アンケートの実施と職員間での情報共有、心の相談室等の有効活用により、多くの児童にとって安全な『心の居場所』『絆づくりの場』が実現されていると考えるが、そこから漏れる児童が常にいることを想定して、対応を継続していく必要がある。 ・ 不登校児童および不登校傾向児童のうち、学校の対応で改善が見られる場合もあった。しかし、家庭環境や本人の発達上の特性である場合は、関係機関と連携しながらも、十分に吟味した対応が必要であるため、改善に時間を要している状況である。	C
---------	---	---	---

↑ 評価基準
 ↓
 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者 評価と意見	A	・ 目標に照らして、活動がなされ、達成していると判断できる。 ・ 不登校は、年度内に新規に出現したり回復したりしているが、1年を通してみると、ほぼ同じ割合である。家庭の影響や個人の特性が強く影響していることが考えられるので、これまでの取組を継続してほしい。 ・ いじめ等のトラブルには、よく対応していることが伝わってくる。	
----------------	---	---	--



自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・ 学校内で対応できる部分と、関連組織・機関に協力を求める部分を分けて、教職員に過度な負担がかからないような対応に努めていく。 ・ 保護者アンケートの回答率が7割程度に止まっているため、より現状に即した対応がとれるように、未回答者への呼びかけをおこなう。	A
-----------------------	--	---